

総合的な学習の時間 ちょっと待って そのメール出していいの！

6年3組
授業者 坂本 修

■ 単元の目標

- 相手の気持ちを考えながら正しい情報を発信することの大切さを理解することができる。
- 物事の善悪を公正・公平に判断し、人を傷つける情報を発信しないように心がけることができる。
- 相手を意識し、正しい情報を発信しようと心がけて電子メールをすることができる。

■ I C T 活用の視点

○ 確かな学力をはぐくむために

コンピュータを使って電子メールを実際に疑似体験することにより、電子メールの良さや危険性と共に話し合い問題を解決することにより、問題解決能力や判断力の向上を図る。

○ 学び合い高めえる意見交流活動をするために

グループごとに話し合いを行い、全体で話し合いをする場面で、デジタルペンと電子黒板を活用して、意見交流を活動を行う。デジタルペンを活用することで、考えたことを自分のプリントに書き込むと、瞬時に、電子黒板に映し出され、他の人がどんな考えをもっているのか瞬時に分かる。そのことによって、意見交流活動が活発になるようになる。

■ 本時の授業の概要

2時間扱いで、前時には電子メールが手紙や電話などと比較して有効なコミュニケーションの手段であることを学ぶ。そして本時では、誹謗中傷をしてしまう誤った使い方を疑似体験し、相手の気持ちやその後の対応を話し合いながら、電子メールを使うときのマナーについて考えていく。また、誤った使い方をして、友人関係が壊れたり、裁判にまでなった事例を紹介し考えを深める。

本時の目標

電子メールを使うときのマナーについて話し合う活動を通じて、相手の気持ちを考えることができます。

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の学習課題をつかむ。	前時までに体験したメール活動を振り返り、コミュニケーションの手段として電子メールが有効な手段であること確認する。 電子メールの使い方について考えよう。
2. 情報モラルコンテンツを使って誹謗、中傷のメール送受信の疑似体験を行う。	ロールプレイング（役割演技）をして臨場感を高めるようにする。
3. 誹謗・中傷のメールについて話し合う。	グループになり、自分が送られてきたらどうするかを考えて話し合う。
4. 全体で考えを深める。 <ul style="list-style-type: none">• 話すときより、気をつけたほうがいい。• ちょっとした言葉でも傷つく。• 持っているほうが悪い。	電子黒板、デジタルペンを活用して、それぞれのグループの意見が分かるようにする。 ○相手の気持ちを考えて電子メールの使い方を考えることができたか。
5. 電子メールや掲示板でのトラブル例を知る。 <ul style="list-style-type: none">• いじめ• 自殺• 爆発予告→逮捕	メールや掲示板の書き込みなどが原因となって起きた事件や新聞記事などを紹介し、便利さの裏側にある危険性に気づくようにする。
6. 本時の授業の感想を書く。	本時の授業の成果をメールや電子掲示板を活用した他校との共同学習にも生かせるようにする。